

# 人口構造の変化に応じた税財政体系へ



衆議院議員

すずき じゅんじ  
**鈴木 淳司**

愛知県第7区〔2回〕

## 主な経歴

衆議院文部科学委員会 理事(現職)  
衆議院国土交通委員会 委員(現職)  
自民党文部科学部会長代理(現職)  
自民党女性局長代理(現職)  
瀬戸市議会議員(元職)  
松下政経塾塾生(元職)

## 尊敬する人

山岡鉄舟 西郷隆盛

## 今までで最もうれしかったこと

多くの人の支援で、公職の場に送り出して頂いたこと

## 影響を受けた一冊の本

「メメント・モリ」 藤原新也

## 好きな言葉

「誠は天の道なり、  
これを誠にするは人の道なり」

## 趣味・スポーツ

やきもの鑑賞 旅行 音楽 読書  
武道全般(特に 居合道 剣道 弓道)

## 好きな食べ物

蕎麦 寿司 自然薯 鯨の開き



本会議にて代表質問

今日わが国に漂う暗雲・・・それは、漠とした将来不安ではなからうか。

年金不信や医療や介護の負担感といった将来不安が蔓延する中では、希望は描きにくい。公的社会保障制度に安心感が持てなければ、人は老後に備えて消費を抑制し、自ら自衛のための手段を講じざるを得ない。いきおい、経済活動は停滞し、社会のダイナミズムは失われ、公的社会保障制度自体の存立基盤をもおびやかすこととなる。

人口減少を迎え、人口構成が劇的に変化し、生産年齢人口の減少とともに、高齢者層が相対的に増加する中であって、必然的に増加する社会保障歳出はいかに抑制しようが、それには一定の限界がある。事実、医療や介護の現場でも、もはや限界に近い努力が続く。

一方、社会保障関係支出の増加で、社会資本整備その他の一般歳出は厳しく抑制せざるを得ないばかりか、年々削減を

余儀なくされる。事実、次の国富を生み出す投資が十分できないまま、ここ十数年来、わが国は国際競争力を大きく低下させた。結果、医療や福祉、介護・年金といった現場はもとより、教育や研究開発・社会資本整備といった部門も不満を抱え、いずれも不十分な結果となる。即ち、人口が伸びていくことが前提の税財政体系は、人口減少・少子高齢化時代には通用しなくなってきている。

とすれば、税財政構造改革は不可欠である。効率化と共に、生産年齢人口に偏った税体系から、広く薄く国民が負担を分かち合う税体系にシフトせざるを得ない。一般会計と社会保障関係の支出の間にミシン目を入れて、後者に福祉目的の消費税を充てる中で、社会保障制度への安心感を作り出すことが、国民を覆う不安感の解消と経済活性につながるのではないかと思う。



地域の課題を熱心に討議



まちづくりの仲間とともに